

**標準化された選択肢提示と効率的な提供体制構築に関する研究**

研究分担者 織田 順 東京医科大学 救急・災害医学分野 主任教授

研究要旨:平成24年5月1日に一部改正された「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針(ガイドライン)の中では、臓器提供の機会があること、及び承諾に係る手続に際しては主治医以外の者(コーディネーター)による説明があることを口頭又は書面により告げること、とされているが依然として、限られた期間に、選択肢提示を行うことは心情的に困難だという声が多く聞かれる。本分担研究においては、選択肢提示のタイミング、及び医療者の専門性による特性と選択肢提示の関係について検討、考察を行った。選択肢提示そのものへの捉え方やイメージ、アプローチに差があることが推し量られた。患者さんご本人の意思を活かすために、選択肢提示に関する一連の手順を標準化することが助けになると考えられ、そのためには平易でイメージの偏りのない用語、啓発が期待される。

**A. 研究目的**

平成24年5月1日に一部改正された「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針(ガイドライン)の中では、臓器提供の機会があること、及び承諾に係る手続に際しては主治医以外の者(コーディネーター)による説明があることを口頭又は書面により告げること、とされている。あわせて、その際、説明を聴くことを強制してはならないこと、臓器提供に関して意思表示カードの所持等、本人が何らかの意思表示を行っていたかについて把握するように努めることと記載されている。

しかし依然として、信頼関係を十分に構築する前に、選択肢提示を行うことは困難だという声が多く聞かれ、これは心情として理解できるところである。

本分担研究では、選択肢提示に関する困難と対策について考察し、さらに、臓器・組織提供の経験を有する施設の医師、移植コーディネーターにインタビューを行い、この周辺の問題に関する意見を収集した。

ネーターにインタビューを行い、この周辺の問題に関する意見を収集した。

**B. 研究方法**

(1) 分担研究者らは選択肢提示に関しては基本的に、平坦脳波・脳幹反射消失が認められた時点で、標準的な方法により、移植医療に関する情報提供を行い、詳細を聞いても良いというご家族にはコーディネーターとの面談を設定する、という方法をとっている。手順を整理し、五類型施設において、臓器提供の意思表示があった際には臓器提供に関わる可能性が高い医療スタッフにお示しし、意見交換を行った。

(2) 臓器・組織提供の経験を有する施設の医師、コーディネーターにインタビューを行い、選択肢提示の手順やタイミング、ほかの職員の反応に関する意見を収集した。特定のフォームによって行わず、自由に意見交換する形

式とした。

#### (倫理面への配慮)

症例台帳・データベースを用いる際には、個人情報保護法、疫学研究に関する倫理指針に従い、匿名化された非連結データセットを用いて分析を行った。

#### C. 研究結果

患者さんのご家族に対して、救急集中治療とその説明を行っている立場から、臓器提供の話へとは、話の方向が正反対に感じられ、切り出しにくい(図 1)と感じることが多いということであった。医療者は手術や検査の説明と同意に携わることが多く、同意を得ることに慣れていることから、選択肢提示においても同様に、同意を得るということが目的であるように感じてしまう(図 2)のがその要因であるのではないか、という点にも賛成する声が多かった。分担研究者らが行っている選択肢提示に関する方法は、平坦脳波・脳幹反射消失が認められた時点で、標準的な方法により、移植医療に関する情報提供を行い、詳細を聞いても良いというご家族にはコーディネーターとの面談を設定する、というものである。これを伝えた上で、さらなる自施設で経験や問題、工夫などについて幅広くご意見を得た(表 1)。その中には選択肢提示、が臓器提供の意思確認を行うこと、あるいは同意を得ること、というイメージになっているという声が少なくなかった。

#### D. 考察

選択肢提示のあり方として、標準的な方法により、移植医療に関する情報提供を行い、詳細を聞いても良いというご家族にはコーディネ

ーターとの面談を設定する方法は、主治医チームの負担が軽減される点で多くの施設の納得を得るものではあったが、実際にはリーダーシップをとる医療スタッフ(多くは医師)が選択肢提示を進めるシステムをとっているという声が多く聞かれた。

選択肢提示が進まない施設の中にはその敷居の高さを挙げる声も多かった。「臓器提供の機会があること、及び承諾に係る手続に際しては主治医以外の者(コーディネーター)による説明があることを口頭又は書面により告げること」、つまり告げるだけで良い、というイメージになっていない(図 2)のではないかと思われた。これには今後のコーディネーターの質向上と連携がますます重要となる。

言葉の指すイメージを修正するのはなかなか大変であり、言い換えを考察した方が有利であるかもしれないと考え考察した(表 2)。臓器提供施設、の語は臓器摘出が行われるまさにその時においては適切であるが、平時に単に大学附属病院、日本救急医学会の指導医指定施設、日本脳神経外科学会の基幹施設又は連携施設、救命救急センターとして認定された施設、日本小児総合医療施設協議会の会員施設を指して臓器提供施設、と呼ぶのは不適切であろう。「選択肢提示」は、少なくとも施設で長年、「臓器提供の提案をすること」「臓器提供の同意を得ること」とイメージされており、この修正はなかなか難しいことから、「臓器提供の機会があること、及び承諾に係る手続に際しては主治医以外の者(コーディネーター)による説明があることを口頭又は書面により告げること」を表す言い方としては「移植医療に関する情報提供」が受け入れられやすかつ負担感がないのではないかと思われる。

## E. 結論

臓器提供をする意思をお持ちの方の意思を活かすために「移植医療に関する情報提供」を行う。五類型施設のスタッフが同じようにイメージできるための用語の再確認、言い換えの考察と提案を行った。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- ・織田順. 外傷による病院前心肺停止の蘇生中止の指針. 救急・集中治療最新ガイドライン 2018-'19. 総合医学社. 158-159, 2018

### 2. 学会発表

なし

## G. 知的財産権の出願・登録情報

なし

(表 1) 臓器・組織提供の経験施設から個別に聞かれた声 (特に選択肢提示に関連したものについて)

(1) 選択肢提示の方法、状況について

- ・脳死下臓器提供を初めて経験した施設において、その経験後に院内全体の選択肢提示への積極性が増したという声があった。
- ・移植医療への当事者意識に差がある、イメージも人によりさまざまである。
- ・移植医療に通じたスタッフがリーダーシップをとるやり方となっている。
- ・選択肢提示を行うための患者状況がさまざまであった。
- ・移植医療の有効性に関する講演会は、受け手の所属部署によって響き方が異なるようであった。
- ・入院時に一律に臓器提供に関する資料をお渡しするのは当施設では困難、という声が聞かれた。

(2) 法的脳死判定について

- ・大切なことは十分承知しているが、検証票の記載がなかなか大きな負担になっている。

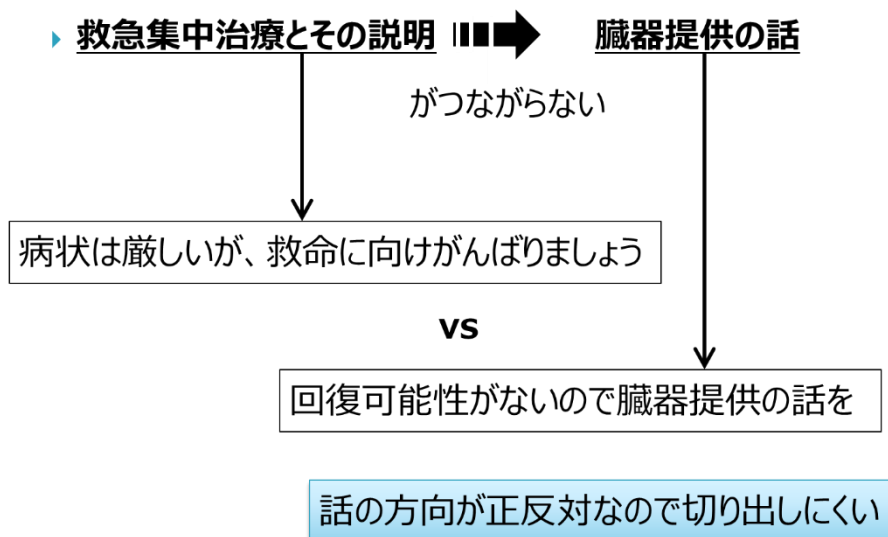
(3) 院内体制整備について

- ・神経領域では、選択肢提示に対する躊躇というより、院内体制に対する不安が先立つ場合もある。
- ・控え室ひとつとっても、また当日の人員配置は予定通り行かないことが多いとのことであった(しかしシミュレーションを否定するものではないと申し添えられた)。
- ・コーディネーターのフットワークや資質は極めて重要という声が多かった。
- ・コーディネーター以外に、臨床心理士のチームへの参加を期待する意見があった。

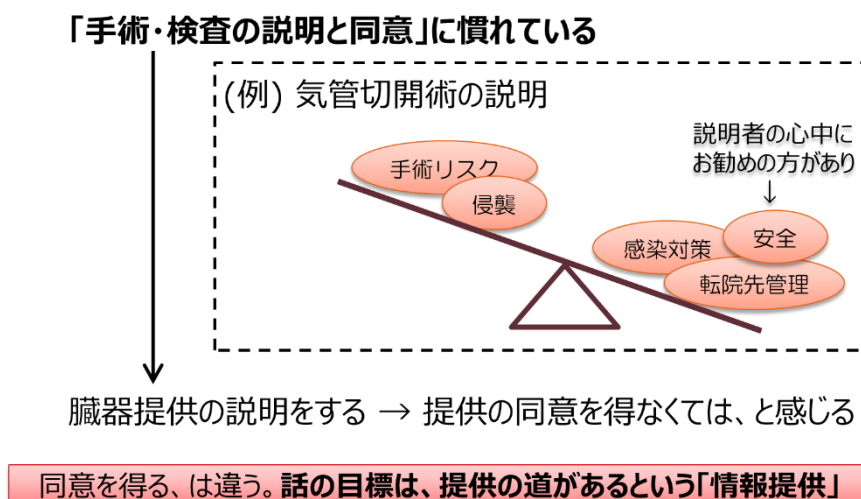
(表 2) 平易で誤解、偏りのない用語に関する考察と提案

| 用語                   | 解説   |
|----------------------|--|
| 五類型施設、あるいは、いわゆる五類型施設 | 臓器提供の意思表示があった際に、主に臓器提供に関わる機会が多いと考えられる部署は救急・集中治療や脳神経診療に関わる部署であるが、これらを持つ医療機関は、時に「臓器提供施設」と呼ばれることがあった。五類型施設と称するのが適切であると考えられる。脳死下臓器提供が行える施設、というのが最も適切であるが長いので五類型施設ということでよいと考える。   |
| 臓器提供施設               | 一方、臓器摘出が行われるまさにその時においては、臓器摘出が行われるあるいは行われたその施設という意味で「臓器提供施設」と称することには問題ないと思われる。臓器移植を行うあるいは行った施設を臓器移植施設と呼んで区別できる。従って、単に大学附属病院、日本救急医学会の指導医指定施設、日本脳神経外科学会の基幹施設又は連携施設、救命救急センターとして認定された施設、日本小児総合医療施設協議会の会員施設を指して臓器提供施設、と呼ぶのは不適切である。 |
| 選択肢提示、あるいは、オプション提示   | 選択肢提示、オプション提示、とは「臓器提供の機会があること、及び承諾に係る手続に際しては主治医以外の者(コーディネーター)による説明があることを口頭又は書面により告げること」であるが、少なくない施設で長年、「臓器提供の提案をすること」「臓器提供の同意を得ること」とイメージされており、この修正はなかなか難しい。  |
| 移植医療に関する情報提供         | そこで、より「臓器提供の機会があること、及び承諾に係る手続に際しては主治医以外の者(コーディネーター)による説明があることを口頭又は書面により告げること」を正確にイメージしやすいことを目的として、「移植医療に関する情報提供」を用いることを提案する。   |
| 臓器提供、臓器移植、移植医療       | 提供を受けた臓器・組織を他人に移植する医療の全体を指して「移植医療」と呼ぶが、この際の「移植」を誤用して臓器提供のことを「臓器移植」、と誤って呼んでしまうことがある。  |

(図 1) ご家族に選択肢提示の話を持ち出しにくいと感じる際のイメージ



(図 2) 話を切り出しにくいことについての考察



(図 3) 活動脳波、脳幹反射が失われた患者さんに関する選択肢提示のタイミング

